

# WSS NEWS

メッセージ

## 「釣り人ができること」

湾岸シーバスソサエティーが発足して2年目になります。その2年前から始めたのが、「釣り人による大阪湾の水質調査」でした。これはNPO 釣り文化協会(代表来田仁成、事務局長萱間修)が国土交通省など行政との協働で始めたものです。釣りをするついでに、水質を調べて、それを報告し、大阪湾の環境再生に役立ててほしいということで、今年は4年目の調査を行っています。

同じく釣り人のNPOとしてはNPO 水辺基盤協会(代表吉田幸二)がこれも4年前に立ち上がり、それまで10年以上行ってきた53ピックアップを全国的に継続する体制を作りました。

WSSの皆さんも大阪湾53ピックアップや多摩川の清掃活動などに参加していただいていますからお分かりだと思うのですが、私たちは釣り人ではあっても、別に「釣り人のために」やっているわけではなく、また「社会のために」というような大げさなことを考えているわけでもなく、しいていえば「やりたいからやっている」、つまり、市民として当たり前のことをやっているという意識が強いですね。個人個人の思いが一つに集まって、新しいベクトルが生まれているだけなのだろうと思います。

しかし、ひと昔前は(これは釣り人だけではないのですが)、市民は権利を主張するだけの存在で、社会整備や社会保障はすべて国の責任だとする人たちがたくさんいました。結果、池にはフェンスができ、海辺や川には子供だけでは出かけてはいけないというキマリができ、守るべき環境を知らない人たちを作ってしまったし、また、弱い人たちを介護することさえシステムに組み込んでしまい、人と人が助け合うという根本をも忘れさせるような混乱した時代を作ってしまったと思います。

私たち釣り人も、昔は「ただ釣って持って帰るだけ」の人でした。しかし今は、環境良化や水辺の安全確保など、釣りをすることと「何か役に立つようなこと」が同時にできることを望んでいます。間違っても「釣り人が環境に対して負荷をかけている」といわれることがあってはならないと誰もが思っているからです。

釣り人ができること。それはきっとあると思います。WSSのルールが「助け合う」「譲り合う」という考え方を基にしているのは、昔から受け継いできた釣り人の共通性を社会に役立たせたいという思いがあるからです。

(WSS チェアマン 萱間修)

第6号は稲垣雅仁さんと宮川智道さんの特別寄稿です!!

湾岸シーバスソサエティー

5300041 大阪市北区天神橋3-8-15 フィッシュマン内

tel:06-6358-4414 fax:06-6358-4445

Email: info@wangan-seabass.com

今回は「釣技研究」です。大会という同じ条件で魚と対峙した者だけが理解できることかもしれませんが、ここに「釣技の神髄」、または「神髄に近づける何か」があるはず! シーバスという魚をもっと知るために、よ~くお読みください。

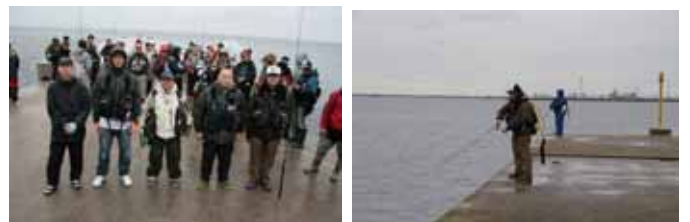
伊勢湾大会を制したニューヒーローの特別寄稿

## 「リトリーブスピード」

Text by 稲垣雅仁



私は、まだシーバス釣りを始めて11ヶ月という素人です。もちろんWSSに出会ったのもごく最近のこと。そんな私は、もちろんレポートに書かせていただくようなたいしたテクニクもなく、依頼された時は正直戸惑ってしまいました。そんな私ですが、今回の大会(5/11)でのことを少し書かせていただきます。



今回の「シーガ CUP 伊勢湾コウシン丸エントリー大会」での私の戦略は...まずはくじ引き。くじ運がよければ西側先端を目指すことでした。両先端の潮の流れは、素人の私にもわかりやすく、大会前のプラで、西側で調子がよかったこともあり、前日からここに入ろうと決めていました。なんと、私は見事5番くじをゲット。もちろんファーストフライトでした。一番乗りで西側先端に辿り着くことができました。状況は、先端から沖に向かってゆっくりと潮が流れており、潮目も見ることができました。

ヒットのキモはルアーのスピード？！

さて、今回私が一番気にかけていたことは「リトリーブスピード」です。大会前に霞（一文字）にプラが上がったのは4回。実は沖堤に上がったのも4回で、沖堤のことは右も左もわからないわけです。その4回のプラでも、バラシは何度かあったものの一度も上げることはできませんでした。一度目は姿も見えずにバラシ。二度目はエラ洗い一発のバラシ。三度目は痛恨のタモ入れ失敗でバラシ。でもそんな中で、霞でのブレードでのリトリーブスピードのスピードが少し解ったように思います。

最初の頃はとにかく早く巻いてばかりいたのですが、アタリすらありません。それがスピードを調節していくにつれてアタリがチラホラ。少し遅めのスピードで見事フッキング。その後はとにかくスピードを覚えるのに必死でした。

今回、私がまず最初に使ったルアーはコアマン・パワーブレードのイワシゴールドでした。まず、ルアーをボトムまで落とし底をとる。そして着底後、一度しゃくり、後は「あのリトリーブスピード」で巻いてくる。そしてルアーが浮き上がってきたらフォール、その繰り返しです。

そしてなんと二投目でバイトがありました。頭に中は、今までのプラでのバラシが駆け巡り、慎重に。あんなに緊張したのはいつ以来だろう...見事ランディング成功。私の大会はこれで終わった、なんて幸せな気分になっていました。



数を数えるのが好きなんです

ですが、ふと時計を見るとまだ6時30分。そんな訳にはいかなかったのです。それからは、アタリのない時間が続きました。色々ルアーを変え、カラーを変えていくうちにラッキークラフト・バリッド 90H 緑金にアタリがありました。

相変わらず潮は沖のほうへゆっくり流れていました。私はいつも、巻いてくる時、数を数えます。巻き始めから何回ハンドルを回しているか、バイトがあった場所と距離をだいたい把握するためです。キャストしたらカウントダウン、その後もまた数を数えと、普段から数を数えるのが好きなんです。だから、巻いている時に話しかけられると辛いのですが...

そのカウントでバイトのあった場所は分かりました。後は、そこをどう攻めるかです。

実は大会前のプラでは、バイブレーションで何のアタリも拾ったことがなかった私ですが、プラに同行された方がバリッド緑金

で爆ったことがありました。その時のリトリーブスピードといたら、想像できないほどの速さで、まるでルアーの回収をしているのかと思ってしまうほどでした。それでも魚は反応し、釣れてしまうのですからびっくりしてしまいました。その時のスピードはしっかりと僕の脳裏に焼き付けられていました。

バイトの場所は分かったし、後は「あのリトリーブスピード」で狙うだけです。まず、バイトのあったポイントの10mほど沖にキャストし、底をとり、しゃくってリトリーブポイント手前ぐらいに高速リトリーブにする。まるでDVDでも見ているかのようにあっさりかかっちゃいました。その後は慎重に慎重に取り込み、なぜ自分なんだろう...なんて思いながら取り込み成功。バリッドでの初のシーバスゲットしちゃいました。



その後も、そのポイント付近で数回バイトはあるものの乗せることはできず、終了となりました。

つまり...基本に忠実に！

今回、この大会で初めて沖堤で釣ったシーバス。書かせていただくような大したテクニックもない私ですが、基本をしっかりとおさえることでバイトに持ち込めることを実感できました。大会を通して、自分が少しは成長できたのかな...なんて自惚れてしまいました。もっともっと色々なテクニックをマスターしたい、なんて思うのですが、基本を忠実に、基本あつてのテクニックだと思います。シーバス釣りは奥が深くこれといった答えがありません。

そんな中で、基本に忠実に、尚且つ固定観念に囚われず色々挑戦し、自分のテクニックを磨いて自身へとつなげていきたいと思っています。これからもガンガン上達してガンガン沖堤で釣ってやろうと企んでいます。

(いながきまさひと / 三重県松坂市在住)

# 「R32 テクトロ戦略のキモ」

Text by 宮川智道



第1回釣り助エントリー大会にて、運が味方し1位になった。事前のプラもせず、計画していた釣り方を、現場の状況で変更したのが、良い結果になったと思う。

## <当日の流れ>

受付を済ませて、スタート順を決める台紙を引くと3番。参加者41人が受付を終了すると、有利か不利かファーストフライトの先頭になっていた。雨が降る中、渡船の都合で1時間ほど遅れたスタートとなったが。

まずは近場で様子を見ることに。6番付近の外側に登り、朝一の足下をジグで探る。探りながら、後スタートの人たちが何処に入り、どんな釣り方をするか遠目で見てみると、何度かジグを落とした時にバイトだ。集中力が散漫になっていたのでフッキングしなかった。

バイトがあった付近を丁寧に探るが反応なく、スピニングタックルに交換する。スピンテールジグ29gを投入。沖のブレイク付近を集中的に探るも、まるっきり反応がない。後スタートの人たちが、内側、外側でポツポツとランディングしているのを目にして、少々焦った。



5～6番周辺は人が集中し、既に攻められ、プレッシャーが高くなっているので、あまり攻められないであろう赤灯寄りに移動することにした。

移動中はルアーチェンジしないままスピンテールジグをテクトロする。4番付近まで来た所で2回ショートバイトがあったので、人が少なくなった所でルアーチェンジ。

コアマンのパワーヘッド12gウルトラカラーに、マーズR-32パールレッドインを約1cmカットして装着。ボトムまで落として、更に3mほどラインを出して、今度はゆっくりと、テクトロを始めた。

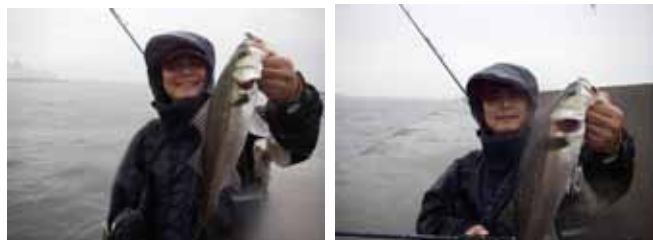


5mほど歩いたケーソンの切れ目辺りで“ココン”とバイト。ロッドワークに加え、レバブレーキのリールの特性を生かしてエラ洗いさせないよう慎重にやりとりしたが、脇が甘く、ランディング直前にエラ洗いをされてフックアウト。前回のエントリー大会でも同様なことが起きたので、全身に脱力感が襲う。

気を取り直し、ライン、フックをチェックして再度テクトロ。しばらくするとロッドティップをおさえる感じのバイト。さきほどよりも軽快な引きであったが、慎重にいなして時間をかけてランディング成功。リミットあるかと心配したが、42cmの540gあった。

ヒットポイントは対岸にスバルの建物のある所だ。リリース時に不用意にランディングした所にリリースしてしまった。いつもなら、これから探る近くにはリリースしない。リリースしたら魚がスレてしまうからである。

リリースした所から少し離れてテクトロ再開。対岸の東洋埠頭が正面に見える所までノーバイト。今度は外側に登り、ケーソンの継ぎ目から歩くと、ものの数歩でヒット。さきほどと同様、慎重にやりとりをしてランディング。46cm、870gだった。



1匹目が10時、2匹目が10時20分と、連続ヒットまでいかないものの、際にシーバスが付いているのは明確となった。

ここで気づいた点は、雨で活性がイマイチなのはわかるが、内側の際にきれいな潮と赤茶けている潮と別れていたが、ヒットもしくはバイトがあった所はいずれもきれいな潮が際から10cmほどの幅に狭くなり、他より若干流れがある所だった。逆にきれいな潮が幅広い所は流れがトロく、反応がなかった。

ストップフィッシングまで1時間ちょっと。もう少し赤灯寄りに行ってみようと思い、テクトロして行くが、流れがよくない。ゴミが多く、際も通しづらい状況。2番から戻りながらテクトロし、東洋埠頭前の内側でヒットしたがヘッドシェイクだけでバレてしまった。すかさず落とし10mほどで再びヒット。やや強引に寄せて43cm、690gを11時にキャッチ。



これでトータル2100gで上位には入れると思ったが、白灯寄りのほうでもいいサイズが上がったようなので、時間一杯テクトロを続けたが、後が続かなく終了時間を迎えた。以上が全体の流れである。

#### <釣りの研究>

今回は、序盤はジグやブレードベイトを使用して大会に挑んだ。みんなと同じ釣り方をしていれば安心、いずれバイトがありヒットがあるだろうと楽天的な考えでいた。しかし、バイトがない状況に我慢できず移動したことにより、ブレードベイトでバイトがあり、ヒントを見つけた。この時ミノを持っていればミノでテクトロをしていたと思うが、あいにくルアーケースに入れてなくて、ジグヘッドリグにワームで挑んだ。

どんな釣りでも、掘り下げると、意外に奥深いのがわかる。例えばブレードベイトが出た頃は投げて巻くだけだったのが、今ではリフト&フォール、ジャークを織り交ぜて釣るようになってきたし、ルアーにも手を加えるようになってきた。アワビシートやマイラーチューブ、布、魚皮など、様々に加えることができる。こまかく書くとキリがないし、そこまで自分でもつきつめていないので、あえてカットさせてもらうが、スレているシーバスを釣るにはノーマルのまま使用するのもいいが、自分で手を加えオリジナルカラーなどを作ったほうが、釣れた時の満足感は倍増するだろう。ちょっと道がそれてしまったが、今回ジグヘッドでテクトロするのは特別珍しいことでもないだろうが、自分が思っていることを書いてみようと思う。

#### タックルを厳選する

まずはレンジ。表層、中層、ボトムと分れるが、テクトロは全レンジを狙うことが可能だ。表層は軽いジグヘッドを使用すれば簡単だし、中層はそれより少し重めのジグヘッド、だいたい7g

前後、ボトム狙いはさらに重たいジグヘッドを使用する。水深の違いもあるが10m前後の話ならこれで十分探ることは可能だ。軽いヘッドでは表層からボトムまで探ることもできるが、すぐに浮き上がってきてレンジキープが難しく、重たいヘッドでは表層は引けるが通常より速く歩かないと狙ったレンジから落ちてしまう。

使い易いのは7g前後のジグヘッド。これだとほぼ全レンジを狙うことができる。また、ジグヘッドの形はどれでもいい訳ではないと思う。私はパレットタイプの物を特に使う。オーナーのドーターヘッド、静ヘッド、コアマンのパワーヘッドは出てすぐに大人買いに走った。

ワームはいわずとしたマーズのR-32を潮色に応じて数種類を用意。ナチュラル系では小沼シャイナ、富津ベイト、アピール系はショップオリジナルや問屋オリジナルを使うことが多い。ベイトが小さい時はR-32のマイクロも使う。

タックルはエバーグリーンのポセイドンシリーズ。ゼファーPZS-88 ストリームマスター、PZS-83 ソリッドソリューション、PZS-98 ストリームマスター98を使い分け、リールはダイワのインパルトISO2500LBDに、ラインはパークレイファイヤーラインクリスタル16LB、18LBを使用している。

#### 引く方向とレンジキープ

潮上、潮下に分かれるが、どちらでも釣れる。ベイトが黙視できれば潮上より潮下に歩いた方が釣れやすいと思う。何故ならベイトは流れに逆らって泳ぐので、はぐれベイトを演出するとよい結果が出ると思う。ジグヘッドリグでのキャスティングゲームは他のルアーよりアピールが足りないのではなかなか難しい時があると思うが、決して釣れない訳ではないのである。



一定のレンジを引く時はロッドティップの高さでレンジキープしやすくなる。表層の場合はロッドはたてぎみにボトムの場合は下にティップを向ければ簡単にキープできる。

まだまだ明かせないネタもあるが今回はこれくらいで、自分で探すのもいいと思います。

(みやがわともみち/パークレイテスター)